

手足のふるえや動作の鈍さなどを 感じていませんか？

パーキンソン病チェックリスト



こんな症状は
ありませんか？

パーキンソン病は、50歳以降に発症することが多く、手足のふるえ、動作の遅さ、筋の固さ、転びやすさなどの症状がみられる病気です。パーキンソン病はめずらしい病気ではなく、薬物治療やリハビリで改善させることが可能です。早期発見のために、下記のチェックリストを利用して、かかりつけの先生に相談してください。

チェックが入れば、かかりつけ医に相談しましょう！

40歳代以下、50歳代、60歳代、70歳代、80歳代以上（男・女）		記入日	年	月	日
1	手や足のふるえがある	はい	いいえ		
2	動作が遅くなった	はい	いいえ		
3	字を書くとだんだん小さくなる	はい	いいえ		
4	姿勢が悪く小刻みな歩行になる	はい	いいえ		
5	歩き出すと止まらないことがある	はい	いいえ		
6	バランスがとりづらく、こけやすい	はい	いいえ		
7	声が小さく聞き返される	はい	いいえ		
8	よだれがよく出る	はい	いいえ		
9	最近笑わなくなったと言われる(無表情)	はい	いいえ		
10	味や臭いについての感覚が鈍くなっている。以前と違う感覚である	はい	いいえ		

結果のみかたについて

上記チェック項目のいずれかで「はい」を答えた人



パーキンソン病の可能性がありますので、かかりつけ医の先生に、このチェックリストをもって相談してください。



日本大学板橋病院 脳神経内科外来
問い合わせ：03-3972-8111（代表）

パーキンソン病とは

どんな病気ですか？

パーキンソン病は主に50歳以降に発症し、ゆっくりと進行する原因不明の神経変性疾患です。適切な治療とリハビリテーションを行えば、健康な方と変わらない生活を送ることができます。

どれくらい患者さんはいますか？

日本での有病率は人口1,000人あたりに約1人とされていますが、60歳以上では100人に約1人で、高齢者では多くなりますので、人口の高齢化に伴い患者さんは増加しています。

どのような人に多いのですか？

ほとんどの人で特別な原因はありません。食事や職業、住んでいる地域など、特別な理由はありません

どのような症状がおきますか？

パーキンソン病は神経伝達物質の一つであるドーパミンが減少する事で起こると考えられています。その結果、手足がふるえる(振戦)、筋肉がこわばる(筋固縮)、動きづらくなる(無動)、バランスが保てなくなる(姿勢反応障害)などの症状が現れます。

どのような治療法がありますか？



治療の基本は薬物療法です。原因である不足したドーパミンを補う事で症状が緩和されますし、飲み薬として直接補充する事ができます。また、脳の神経細胞のネットワークにおけるドーパミンの働きが解明されてきた結果、ドーパミンの働きを補助する作用をもつ複数の薬が使用できるようになっています。効果の異なる薬を組み合わせることで、より効果的な治療を行うなど、きめ細かい対応が行われています。しかし、どの薬を選ぶのか、どのくらいの量の薬を服用するのか、については、患者さんの症状や年齢などを考慮して判断しており、病状に合わせた適切な治療を行うためには、定期的な診察が必要です。

日常生活でどのような注意が必要ですか？



パーキンソン病では、様々な運動療法がリハビリテーションとして行われており、病状の安定や緩和、日常生活の向上において大切な治療と位置づけられています。ストレッチ運動も病状に合わせた専門的なトレーニングと合わせることで、症状の軽減や苦痛の緩和のための有益な治療となります。

パーキンソン病は早期に発見し、早期に適切な治療やリハビリテーションを行う事が勧められています。本人、ご家族の方でお気付きの点があれば、かかりつけ医に相談され、専門医を受診して下さい。